

## 研究発表もうしこみフォーム

氏名：小林 秀高

氏名のローマ字表記：Kobayashi Hidetaka

所属：拓殖大学北海道短期大学

専門分野：政治学・比較政治学

発表のタイトル：モンゴル国における政治制度と大統領の権力

発表要旨（600字～800字程度）：

現代の間接民主制の下では、政治体制は各国の執政府と立法府の関係に基づき、大統領制、議院内閣制、半大統領制の3つのタイプに分類される。モンゴル国では、1990年以降の民主化の過程において、大統領制を支持した人民革命党と議会制を支持した民主化勢力の間の妥協の産物として半大統領制が採用されたと言われている。国民による選挙で選出される大統領と、議会から選出される首相の間で権力を分有する半大統領制はフランスが典型例として取り上げられることが多いが、旧東欧諸国やアジア諸国でしばしば採用されている制度である。

1992年の建国当初、大統領は厳守としての存在感も強く、1993年の大統領選挙ではオチルバト大統領が推薦政党を変えて立候補する事態や、1997年は首相の指名をめぐる大統領と議会の対立政治的な混乱を巻き起こした。しかしながら、近年では大統領よりも議会の権力の方が大きいと理解されている。

本報告では、第1に、比較政治学におけるシュガートらの政治体制の分類法に基づき、半大統領制の政治的な特徴を確認する。論点は、大統領の選出法、内閣の組閣と立法権限、内閣と議会の関係である。第2に、比較政治学的な分類からモンゴル国の政治体制が半大統領制に分類されるのかを検討する。大統領と首相の両方が存在すれば半大統領制とされるわけではなく、韓国のように両者が存在するが大統領制に分類される国もあれば、ドイツのように議院内閣制に分類される国もある。第3に、モンゴル国における2000年の憲法修正によって生じた、執政府と立法府の関係性の変化である。特に、内閣の組閣や議会の開催についての大統領の役割に加えられた小さな変化が以降の大統領の権力の縮小につながったことを分析する。